

燕岳からの展望 36° 左から又又〜三俣
蓮華岳のなまかな稜線、その奥に黒く
黒、部土郎が頭だけ出し、大きな鷲羽と
水晶、奥には立山連峰、金ノ立派な金ノ
木（金岳と間違ひやすい）〜蓮華〜鹿島槍〜
五竜の峰が続き、左は赤い硫黄岳が

北鎌倉根・東鎌倉根の
若狭を両翼に従えた
槍ヶ岳がドッシリと王者
の気品を備えて尖って
いるのが頼もしい。
それすら続く穂高へ
の山なみは 燕山荘
いうことなし。 4/9

自然のありなす岩峰も
エ夫をころしてみんな子真
をとっている、気温も14℃
まで上昇し、無風で暖い。
帰りはあちこち散策しながら

岳頂へは燕山荘から一段おりの広場より北へ登る。
ザラザラした石の山で、長い年月により角の取れた坊
頭の花崗岩が、さまざまな形をしてヨキヨキ露出し
の山と違った異様な……よく見れば芸術作品を形
った風景が展開している。そんな風化岩の間を
って、滑りやすい急坂を登れば、三角点のある頂
に着く。山頂は白い石の上で数石しか立てないの
交互に写真を撮るとしては周囲の石へ腰をのこす。

北には、これから行こうとする餓鬼岳が東沢乗越を狭んで、後嶺な姿を誇っている。コースタイム6時間の道のりである。今日は朝から雲一つ発生することなく、限りなく展望を楽しませてくれたのが何よりだった。休憩しているうちに昨日からの疲れと睡眠不足のせいで眠気を催してくる。もう餓鬼岳へのファイトも消えていき「行かないのが安全だ」と断念する。「今晩は中房温泉でも入って一杯いこうか」と思うと廻水右となる。来年こそ餓鬼岳へと心に誓い、下山することにする。

燕山荘から合戦の頭までは広く良い道で、つり
馬にたくなまじだ。ダケカンバ・ハイマツの間を下
り、合戦の頭の広場よりなへ下り、木段の連続を
12分下ると平地へ出る。合戦小屋前で十数名
休憩している。こゝから登る人々だ。早く下りても
しょうがないなあーと思い、休憩所でパムとナシを
食べる。気温16℃ 汗も引いたので下ることにす。

蛙 岩

ずいぶん下ったような気がする。見上げれば、
ピークの岩峰が100メートルほど上部に見え、
気がつくまで、汗をかきながら、始め緩やかに、
急坂を登り詰め、次のピークで5分休憩す
る。地図で示すゼロ岩はどの辺だろうと、
気がついたころ見落とさないうちに注意して歩く。
大きな青黒い岩峰が前に現れ、右側を
巻く。どこか蛙に似た岩は、なつかしく、あちこち
探しながら、狭い岩の間を抜ける。さてあれ
が蛙岩だろうと眺めるが、絶対とも思え
ず、通過する。「有名なものには説明札で
も立てるべきだ」と思いつきながら先を急ぐ。

46年7月に通った際は確かおしぎがあったと思ってもみたが記憶がハッキリしない。
蛙岩からシヤクナゲ・ハイマツの尾根道を行き右側に乗越し緩やかに下りながらまた左側を歩くようになる。アノ部にくる。あとは燕山荘の高みに向って一気に縁ぐ。

まだ登ってくる人が汗ビッシリになってハアハア言ってくる。
年輩のお母さんたちである。樹林帯の間の笹が両側に茂った急斜面で下るほど道は掘れて割れ、ドスンドスンと飛び降りるようにして下る。木段も段が抜けたりずぶずぶ人傷んでいる。根っ子や岩角に注意しながら曲り曲りして高度も下げて行く。20分ほど下つて女の子2人に追いつく。よく似たサ良さんです。関西から来た(言葉で)と思う。

ベンチで休憩した際、尋ね
たところ、ヤッパリそうで、今夜は
国民宿舎有明荘へ予約し
てあると言う。おれもそこへ泊
る予定に思っていたので一
緒に下る。15:30道路へ
出て10分下って宿泊する。
(東大坂市の吉原さん姉妹)

ためえもん
フリ
為右衛門 吊
尾根を乗越す

最低鞍部

歩きづゝ下りは
速く下れなり、
日注意して巻き込んで
上り下りする所あり、

チョコレートを食べながら少し急ぐことにする。
燕山荘へ10時30分までに着かなければ予定する餓鬼岳へは入水ないのでこの先サ
ホーachをおげることになければと考える。
緩やかなコースも急げば案外登り下りが
きつく思われ以外に疲れる。まだザックも
13kgはあるだろう。20分で岩稜へくる。
確かな意味がわからないが、「ここが地図で
示す為右衛門吊岩付近だなぁー」と、つがや
きながら岩にカメラを置いて正面の燕山岳
写してから少し戻り、稜線の右側へ乗越し
て、小走りに駆けあがる。途中西に東に
移りながら最低鞍部へ、思ったより歩きに
くい下りでハイマツや、花畑への登りに入る。

前後が岩壁の鞍部で狭い。燕岳方面へは左前方に丈夫な鎖が取り付けあるのでそれにつかまって一気に登ることになるが、その前に喜作新道を伐り拓いたブロズの新喜作リーフをカメラに収める。(小林喜作氏は大正12年これより槍ヶ岳への縦走路を開拓したため槍ヶ岳登山が速く安全にできるようになった。) 小柄な真面目そうな顔をた頭に鉢巻をした素朴な刀削師のお爺さんに別れて、鎖につかまってひと登り、正面に燕岳が、右は燕山荘、左側は赤牛〜水晶岳が目に入る。ここから燕山荘まで2時間のコースはノンビリムードで歩くところだ。

全く雲一つ湧き出ぬこの青さ、いい気分で大展望を見渡しながら稜線のすぐ左側(西)を緩やかに下りながら行く。

奥村光信